

機関番号：15401
 研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2008 ～ 2010
 課題番号：20330173
 研究課題名（和文）アジアにおける華人ディアスポラの教育への関与に関する国際比較研究
 研究課題名（英文）Comparative Study of Chinese Diaspora's Commitment to Education in Asia
 研究代表者
 大塚 豊（OTSUKA YUTAKA）
 広島大学・大学院教育学研究科・教授
 研究者番号：00116550

研究成果の概要（和文）：

アジアの地に根を下ろし活躍する華僑・華人のパワーは、経済・政治の分野だけでなく、教育の分野でも見逃せない。本研究では、①当該居住国の教育の発展に対して華僑・華人が果たしてきた支援的役割、②父祖の地である中国の教育発展に対して華僑・華人が寄付活動を通して果たしてきた支援的役割、さらに③中国や台湾が示してきた各国に居住する華僑・華人に対する政策や具体的支援策に関して、その実態と特色を解明した。

研究成果の概要（英文）：

The power of overseas Chinese people who take root on Asian soil is too impressive to be overlooked not only in economy and politics but in the field of education. This study elucidated the actual condition and characteristics of (1) how overseas Chinese people have been playing the supporting role in the educational development of their countries of residence, (2) how they have been contributing the educational development in their fatherland, mainland China by means of donation, and (3) how mainland China as well as Taiwan have been conducting related policies and concrete supporting measures towards overseas Chinese.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	3,000,000	900,000	3,900,000
2009年度	3,100,000	930,000	4,030,000
2010年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
年度			
年度			
総計	9,600,000	2,880,000	12,480,000

研究分野：比較教育学

科研費の分科・細目：教育学・教育社会学

キーワード：華人、華僑、ディアスポラ、華語教育、アイデンティティ

1. 研究開始当初の背景

東南アジア各地を旅して強く感じるものの一つは、それぞれの国や地域に根を下ろし活躍する華僑・華人のパワーである。主に財界、そして一部政界で力を発揮する彼らは、教育の分野でも見逃せない存在である。また、

中国大陸各地の大学や学校を訪れると、人名を冠した図書館や体育館をはじめ、おびただしい数の建物に出くわす。そのほとんど全てが香港や東南アジアでの企業経営を通じて巨万の富を手に入れた華人が、父祖の地の教育発展を願って寄贈したものである。アジア

の教育を語る時、彼ら華僑・華人のパワーを抜きには済ませられない。

旧来の華僑・華人の呼称に代わって使用されるようになったのがチャイニーズ・ディアスポラないし華人ディアスポラ（以下、CDと略記）という概念である。語源的に「離散」「散在」を意味するディアスポラ (Diaspora) とは、元々はパレスチナ以外の地に離散して暮らすユダヤ人やその共同体を指したが、今日その使用範囲が広がり、本来属していた共同体や居住地を離れ、他郷に定住する人々およびその末裔などの民族集団の呼称となっている。各国に居住する CD もその一例である。

研究代表者はこれまで中国を中心とするアジア各国の教育と開発の問題をテーマとして研究を進めてきた。近年の研究過程において、CDの教育への関与や営為に関わるいくつかの研究も手がけたが、それらの研究を通じて、CDがアジア各国の教育発展にとって途方もなく大きな存在であり、彼らの教育に関わる営為の全体像を描き出すことの重要性を改めて強く認識するとともに、個人研究ではカバーしきれない国・地域があることから、共同研究体制を構築することを考えた。

文化人類学や民族学、政治学、歴史学などの分野では、早くからCDに関する研究が進み、相当の学術的蓄積がなされてきた。教育学分野でのCD関連の研究は余り進展していないことに鑑み、中国研究を専門にする者と東南アジア各国の教育研究を専門とする者との協力により体系的な実態解明を図ることを期した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、祖国を離れ、地球上のほぼ全域に根付いていると言っても過言でないCDが、アジア諸国の教育発展に占める位置と役割に注目し、①グローバル化する世界の中で自らのアイデンティティ保持のために如何なる戦略と具体的措置をとり、②現居住国および父祖の地の教育発展のために如何なる支援策を講じてきたかについて、国際比較の観点と歴史的観点の双方から、実証的に解明することにある。

3. 研究の方法

文献研究と現地調査を組み合わせ、大きく2つの側面に絞り解明する。第一に当該国でのCDのための華語教育の実態解明であり、第二にCDによる教育支援の実態解明である。第一の側面では、各国に設置された華語を教授用語とする初等から高等教育レベルまでの各種の学校の特徴を、①機関数・在籍者数・教員数など公式統計に載りにくい量的

側面を把握し、②当該国の関係法規との関連において設置形態を明らかにし、③当該国の国民教育制度のメイン・ストリームに位置づく各学校の教育課程・内容との相違を明らかにする。第二の側面では、①現居住国である各国の教育全般の発展に対してCDが果たしてきた支援的役割、②父祖の地である中国の教育発展に対してCDが寄付活動を通して果たしてきた支援的役割の実態と特色を探究することとした。

4. 研究成果

現地調査では、華人ディアスポラが主体となって推進される各国での華語教育、さらには当該国での外国語としての漢語教育の実態解明を目指した。とくにインドネシア、タイでは質問紙による華語教育に関する調査を実施し、当該国の児童・生徒が華語の学習に対して持っている意識ならびに華語学習の実態の一端を明らかにすることができた。同時並行して実施したのが各国での華語教材の内容分析であり、研究実施期間中の現地調査の機会を利用して少しずつ集め続けて来た各国の華語・漢語教科書の内容を「中国や中華文化からの距離感」という観点に立って分析し、学会発表するとともに、論文としてまとめた。本研究課題のもう一つの柱として設定した①華人ディアスポラによる中国への教育支援と中国政府の対華人ディアスポラ政策、②台湾が行うアジアを中心とする各国の華人のための教育支援、③中国以外のアジアのいくつかの国での華人ディアスポラの教育支援についても、その実態解明に務めた。また、アジアとの対比という観点から、在米華人による寄付活動も取り上げることができた。これらの研究成果をとりまとめ、『アジアにおける華人ディアスポラの教育への関与に関する国際比較研究』と題する報告書（全240頁）を作成し、平成23年度3月20日に刊行した。同報告書は関係諸機関および本研究課題に関心をもつ研究者に送付し、研究交流の一助となることを期した。同報告書の内容構成は、以下のとおりである。

はしがき

第I部 華人ディアスポラと華語・漢語教育

- 1章 インドネシアの華語・漢語教育
—解禁政策後における学習熱の高まり—
- 2章 タイ中等学校生徒の華語学習意識
—質問紙調査結果を中心に—
- 3章 マレーシアにおける華人の教育と華語教育の動向
- 4章 シンガポールにおける華語強化プログラム
- 5章 ベトナムの華語・漢語教育
—ホーチミン市における華僑・華人による

支援実態—

6章 カンボジアの華語教育

—熱狂から冷却へ—

7章 アジアにおける華人ディアスポラの教育と中華文化

—漢語・華語教科書の内容分析を中心に—

第II部 華人ディアスポラによる教育支援

8章 海外華僑・華人の中国教育に対する財政支援

9章 台湾における華人に対する教育支援と海外への教育展開

10章 ボルネオ華人ディアスポラの教育支援活動—サバ・サラワク州における独中支援を事例として—

11章 海外華僑・華人、香港・マカオ・台湾華人の海南大学への貢献

12章 在米華僑・華人の寄付活動による教育支援

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計14件)

- ① 大塚豊「中国の大学院教育と指導教員出資支援制」『教育科学』第28号、2011年、64-92頁。査読なし。
- ② 大塚豊「国家戦略としての中国の留学政策」『中国21』第33号、2010年、55-74頁。査読あり。
- ③ 服部美奈「女子イスラーム学校への保健・体育学の導入—ディニア・プトリ創設者ラフマ・エル・ユヌシヤールの足跡から—」西野節男編『東南アジア・マレー世界のイスラーム教育—マレーシアとインドネシアの比較—』巻なし、2010年、217-244頁。査読なし。
- ④ 服部美奈「インドネシアにおける地域間教育格差と地方分権化」東洋大学アジア文化研究所・アジア地域研究センター編刊『アジア社会の発展と文化変容』巻なし、2010年、217-244頁。査読なし。
- ⑤ 服部美奈「インドネシアにおける国民教育の歴史的展開—スハルトの『開発』体制から『改革(Reformasi)』体制への移行」『東洋大学学術フロンティア報告書』巻なし、2010年、244-260頁。査読なし。
- ⑥ Otsuka, Yutaka. “Challenges of Fieldwork in Comparative Education Studies in Japan: A Methodological Consideration” *Educational Studies in Japan: International Yearbook*. No.4,

2010, pp. 37-51. 査読あり。

- ⑦ Hattori, Mina. “Muslim Women’s Education” Ramlee Mustapha, Norzaini Azman, Abdul Razak Ahmad (eds.) *Education for Diverse Learners*. 巻なし、2009, pp.189-203. 査読なし。
- ⑧ 南部広孝「中国の高等教育戦略(前編) 急激な量的拡大と質の維持・向上に向けた改革の進展」『カレッジマネジメント』第158号、2009年、50-53頁。査読なし。
- ⑨ 南部広孝「体制創新与人材培養」田慧生・田中耕治編『21世紀的日本教育改革—中日学者的視点—』中国教育科学出版社、巻なし、2009年、110-137頁。査読なし。
- ⑩ 大塚豊「留学生政策の比較分析—日本の『留学生30万人計画』を軸として—」『比較教育学研究』第40号、2009年、176-180頁。査読あり。
- ⑪ 大塚豊(張愛訳)「全球化時代対日本大学通識教育的幾点思考」王曉純・呉晚雲編『大学生GE閲読』中国伝媒大学出版社、巻なし、2009年6月、312-319頁。査読なし。
- ⑫ 大塚豊「カンボジアにおける華語学校的位置と役割の変容」西野節男編『現代カンボジア教育の諸相』東洋大学アジア文化研究所・アジア地域研究センター、巻なし、2009年、175-196頁。査読なし。
- ⑬ 日暮トモ子「中国の対外言語教育政策—現状と課題—」『比較教育学研究』第37号、東信堂、2008年、68-78頁。査読あり。
- ⑭ 大塚豊「中国の大学入試」『IDE 現代の高等教育』No.506、2008年12月号、50-54頁。査読なし。

[学会発表] (計3件)

- ① 大塚豊・南部広孝・植村広美「アジアにおける華人ディアスポラの教育と中華文化—漢語・華語教科書の内容分析を中心に—」日本比較教育学会第46回大会、2010年6月26日、神戸大学。
- ② 大塚豊「日本的比較教育研究中的實地調研的挑戰—研究方法研討的一個視角—」中華民國(台湾)比較教育学会、2009年11月22日、国立台湾師範大学。
- ③ 服部美奈「研究方法としての『教育生態学』」日本比較教育学会第45回大会、2009年6月28日、東京学芸大学。

[図書] (計3件)

- ① 大塚豊編『アジアにおける華人ディアスポラの教育への関与に関する国際比較研究』（平成 20～22 年度科学研究費補助金・基盤研究(B)研究成果報告書、2011 年 3 月、240 頁。
- ② 楠山研『現代中国初中等教育の多様化と制度改革』東信堂、2010 年、237 頁。
- ③ 南部広孝『中国高等教育独学試験制度の展開』東信堂、2009 年、222 頁。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大塚 豊 (OTSUKA YUTAKA)
広島大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号：00116550

(2) 研究分担者

石井 光夫 (ISHII MITSUO)
東北大学・高等教育開発推進センター・
教授
研究者番号：30375175

小川 佳万 (OGAWA YOSHIKAZU)
東北大学・大学院教育学研究科・准教授
研究者番号：90284223

楠山 研 (KUSUYAMA KEN)
長崎大学教育学部・准教授
研究者番号：20452328

鈴木 康郎 (SUZUKI KORO)
大阪成蹊短期大学・児童教育学科・講師
研究者番号：10344847

竹熊 尚夫 (TAKEKUMA HISAO)
九州大学・大学院人間環境学研究科・准
教授
研究者番号：10264003

南部 広孝 (NANBU HIROTAKA)
京都大学・教育学研究科・准教授
研究者番号：70301306

服部 美奈 (HATTORI MINA)
名古屋大学・大学院教育発達科学研究
科・准教授
研究者番号：30298442

(3) 連携研究者

日暮トモ子 (HIGURASHI TOMOKO)
有明教育芸術短期大学・子ども教育学
科・准教授
研究者番号：70564904

(4) 研究協力者

植村 広美 (UEMURA HIROMI)
日本学術振興会特別研究員

角田 梢 (TSUNODA KOZUE)
メリーランド大学・博士課程・院生

牧 貴愛 (MAKI TAKAYOSHI)
広島大学・大学院教育学研究科・教育研
究補助職員